

こんにちは、(公社)ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサーの古田菜穂子です。猛暑も過ぎ、若干不安定な気候が続いていますが、みなさま、お元気でしょうか？

9月14日(月)に「ひょうご観光ブラッシュアップセミナー」が開催されましたが、現地及びオンラインで参加していただいた方々、ありがとうございました。このセミナーは、昨年から実施しましたが、とても画期的なセミナーです。ご存じでなかった方のために、少しその趣旨をここに記しておきます。

過去、数年間にみなさんとともに開拓してきた、ひょうごテロワールやフィールドパビリオンといった各地の魅力ある地域コンテンツ(資源・資本)を、インバウンド観光にも対応可能なキーコンテンツとしての観光資源にするために、地域のさまざまな業態の方々に集まっていただき、ストーリーやテーマでつなぐ旅行商品化を行い、プロモーション・販売までを一体的に訴求できるようにしようというものです。

もう少し説明すると、さまざまな観光関連事業者が一堂に集まり、地域を元気にする持続可能な「新たな観光商品」づくりを検討し、それらを試験的に **FAM TRIP** として、実際に旅行企画を行う事業者へ具体提案し、商品化までを目指します(昨年の実施の成果も出ています)。

同時に、インバウンドはもちろん、地域を豊かにできる兵庫県ならではの、ツーリズムディステイネーション構築のプロセスを、県が行政施作の一環として、みなさんとともに作りあげ、一緒に実現化していこうという取り組みです。

そこで大切なのは、いわゆる従来型の「旅行事業者」と呼ばれる方々だけがつながって観光商品を考えていくといった縦割りの思考ではなく、私が前々からお話をしている、観光はすべての産業、事業につながるという考えでの、縦横無尽な「つながり」を実践し、本気で地域に、新たな交流や、シビックプライド、そして地域資源を守り、発展させるという地域振興につながる新産業としてのサステナブルなウェルネスツーリズムの実現を通じて持続可能な観光基盤をつくりあげようというものです。

そこで大切なのはテロワールの発想。その場所にしかない多面的な物語を観光体験化し、その体験を「時間軸」で捉え直し、おとずれる人も、迎える人にも価値を生み出すライフサイクル(生活環)的な視点による新しい「観光」という「なりわい」の実現です。

なんて大袈裟な！と思われるかもしれませんが、実際に、世界潮流のなかでの「これからの観光」に求められているのは、そんな「一人ひとりの生き方」に影響を与える「体験共有」です。だからこそ多面的な視点やつながり、そして人と人とのコミュニケーションのあり方がとても重要になります。こんな面白い仕事、なかなかないですよ。簡単ではありませんが、でも、そんな事業にみなさんも一緒にコミットしていただきたいです。まっさらで柔軟な発想と、好奇心やワクワクする想い。そして笑顔で向き合える健康的(ウェルネス)な眼差しで！！

追伸：このメールが発信される9月30日には、私が月1回神戸新聞の夕刊に書かせていただいている「ホリスティック観光ラボ」vol.4が掲載されます。今回はインバウンドに向けた手法の話を書いています。よかったらそちらもご一読いただければ幸いです。